

ス テ イ ブ ル
StA²BLE[®]

Standing-function Assist and Assessment method Based on Light touch Effect

転倒予防に貢献

活用事例集

労働現場

地方自治体

- 株式会社BRIDGESTONE様
- TDK株式会社様
- 田中貴金属工業株式会社様
- キューピー株式会社様
- キヤノン株式会社様
- 八千代市リハビリテーション協議会様
- シャープ株式会社×堺市様
- 大原記念労働科学研究所 様
- 尾道市様



株式会社 BRIDGESTONE 様 StA²BLE 導入事例

StA²BLEの活用で

転倒予防の新たなアプローチ

背景

- 「安全はすべてに優先する」という企業理念のもと、安全対策を強化
- 環境整備やKY活動だけでは防ぎきれない“転倒災害”が継続
- 人的リスクに対する科学的な可視化技術「StA²BLE」と出会い、導入を検討

使用

結果

- 全従業員を対象とした転倒リスクの数値化と傾向の把握に成功
- 新たに開発した体操プログラムを国内全工場に展開
- 従業員の意識変化と実践の習慣化により、職場の安全性と健康意識が向上

導入の背景

従来の転倒防止対策では限界があり、「人の要因」へのアプローチが必要とされていた。

当社では、「安全はすべてに優先する」という安全宣言のもと、従業員の安全と安心を確保するために、3S(整理・整頓・清掃)活動や危険予知(KY)活動など、さまざまな安全対策を行ってきました。特に課題となっていたのが、転倒災害の低減です。職場環境の整備や意識づけによる対策を講じていたものの、依然として転倒による事故が発生しており、従来の手法だけでは十分ではないと感じていました。整った環境でも転倒してしまう従業員が一定数いることから、「人」に起因するリスクへの対応の必要性を認識するようになりました。そうした背景のもと、2019年にUNTRACKED社と横浜国立大学が開発した、個々人の転倒リスクを可視化する技術「StA²BLE」と出会い、導入に向けた検討が始まりました。

導入のポイント

リスクの可視化により全従業員に対応できる体操プログラムを新たに開発し、全国展開へとつなげた

StA²BLEを用いて当社工場の従業員を対象に転倒リスクを社内評価したところ、19歳から65歳までの全ての年齢層において、一定の割合で転倒リスクが存在していることが明らかになりました。これを受けて、従来の体操だけでは対応しきれないことが判明し、UNTRACKED社と協力し、転倒予防に特化した機能回復体操を新たに開発。工場での試行導入により改善効果が確認されたことから、2023年よりこの取り組みを国内全工場へと展開することとなりました。すべての従業員を対象に、より効果的な予防策を提供できる体制を整えたことが、大きな導入のポイントです。



導入の効果1(従業員個人への影響)

自分のリスクを「見える化」することで、従業員の意識と行動が前向きに変化した。

StA²BLE による転倒リスクの見える化は、従業員一人ひとりに大きな気づきをもたらしました。自身のリスクレベルを数値で確認できることで、日々の体操への意欲が高まり、継続的な実施が可能となっています。体操の継続による改善効果を可視化できることは、単なる安全対策にとどまらず、健康な身体づくりへの意識向上にもつながっています。個々のモチベーションを引き出すことで、転倒予防活動が自然と習慣化されていく効果が見られています。

導入の効果2(組織全体への影響)

従来の安全活動を補完し、「人の要因」にも科学的アプローチが可能に

StA²BLE の導入により、これまで環境整備や KY 活動といった外的要因に焦点を当てていた安全活動に加えて、人的要因にも科学的にアプローチすることができるようになりました。転倒予防体操を全従業員が継続して実施することで

全社的なリスク低減が進み、安全で健康な職場づくりが実現しつつあります。生産活動を安全に、そして持続的に行える体制が整ってきたことは、会社全体にとって大きな成果といえます。

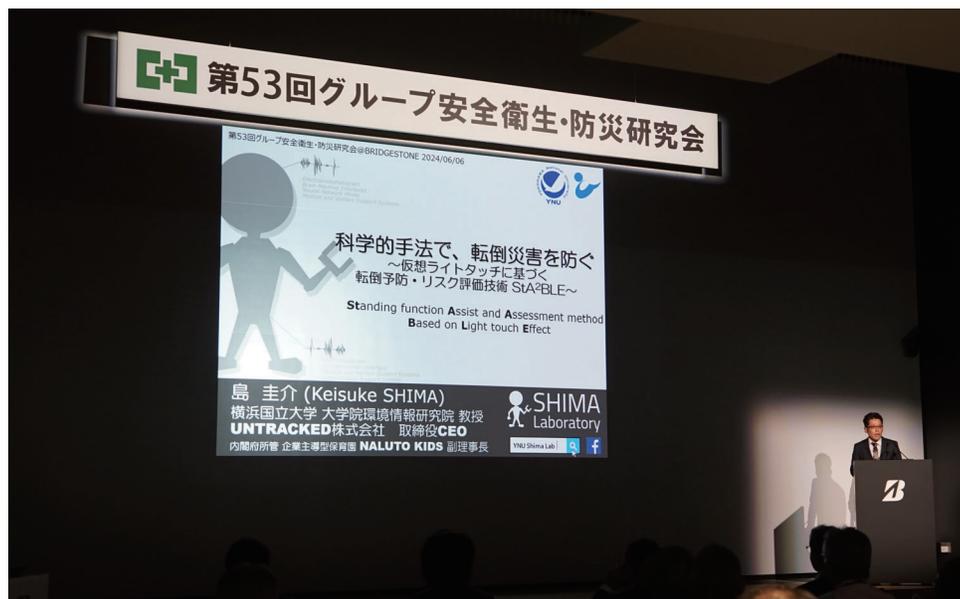
今後の展望

安全と健康の両立を目指し、StA²BLEを軸にした継続的な活動を推進。

今後も StA²BLE の活用を継続し、従業員一人ひとりの転倒リスクの把握と改善を進めていきます。新たに導入した機能回復体操のさらなる効果検証や改善を重ねながら、安全対策の質を高めていく方針です。転倒予防に特化した体操を継続して実施することで、全ての従業員の転倒リスク低減、つまり安全でそして健康を維持しながら、生産活動を行えることができるのではと考えております

BRIDGESTONE様、ありがとうございました。

UNTRACKED株式会社は今後ともBRIDGESTONE様の安全衛生活動のお手伝いさせていただきます。



2024年6月6日 安全衛生・防災研究会での講演の様子

 転倒リスク計測装置StA²BLEが内閣府の海外向けCMで放映されました。

内閣府のyoutubeでも公開されています。このCMでStA²BLEは、高齢労働者の社会進出を支援するツールとして紹介されています。今回、日本での使用例として株式会社ブリヂストン様の取り組みが紹介されました。



視聴はこちら

TDK株式会社様 StA²BLE 導入事例

StA²BLEの活用で 「気づき」と「行動変容」を促す安全教育の新しいかたち

鎌田 麻美様(秋田・庄内総務部 安全環境施設課)

背景

- 労災分析から「転倒災害」が最も多いことが判明
- 身体機能とバランス感覚を客観的に評価できる方法を模索
- 両方を測定できる信頼性の高い機器としてStA²BLEに着目

使用 結果

- 半年間で延べ1,000名の従業員を測定し、健康意識と転倒リスク自覚を向上
- 測定を通して従業員の健康意識が大きく向上
- 傾向分析を教育内容に反映し、改善運動の継続につなげる仕組みを構築

導入の背景

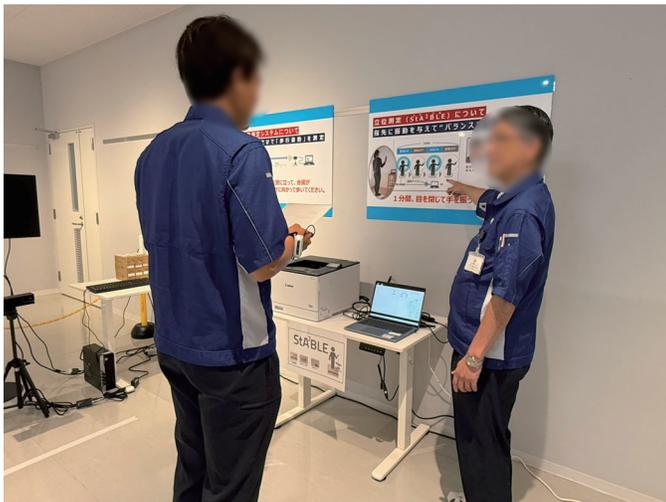
最も多い労働災害である「転倒災害」に着目し、従業員の身体機能とバランス感覚の客観的な評価を模索。

弊社では、労災リスク低減のため定期的に安全教育を実施しており、労働災害の傾向分析から「転倒災害」が最も多いことが明らかとなっていました。これまで、転倒災害の原因である「身体機能の低下」と「バランス感覚の低下」の測定方法を検討していました。身体機能は測定機器が見つかりましたが、バランス感覚を数値化できる機器がなかなか見つからず課題でした。夫々について計測可能な機器を探していたところ、StA² BLE を見つけました。

導入のポイント

厚生労働省認定の信頼性と、数値による自覚と行動変容を促す仕組みに納得して導入。

StA²BLE は、厚生労働省による実証・評価を経て推奨機器として認定されており、その測定原理の信頼性にまず魅力を感じました。導入にあたっては、計測の正確さや評価レポートの分かりやすさも重要なポイントでした。測定結果に基づくレポートでは、身体機能やバランス能力が数値化されるだけでなく、課題に応じた具体的な運動アドバイスも提示されるため、被測定者本人にも理解しやすく、行動変容の第一歩を後押しするツールであると感じました。



導入の効果1(従業員の意識変容)

約1,000名の測定を通じて、従業員の健康意識と転倒リスク自覚を促進。

2024年10月から2025年3月までの半年間で、延べ1,000名の従業員に対してStA²BLEを活用した測定を実施しました。測定後のアンケート結果では、「自身の健康体力維持・増進のために生活習慣を望ましいものに改善しようと思う」と回答した方が97%に達しており、従業員の健康意識が大きく高まったことがうかがえます。また、結果を見て「自分が転倒リスクを抱えていることを初めて自覚した」という声も複数寄せられており、気づきを得る狙いとしては効果的だったと思います。

導入の効果2(教育の質と労災予防の向上)

身体の状態を可視化し、改善へつなげる仕組みづくり。

加齢によるバランス感覚の低下を評価することが課題でしたが、短時間で、手軽に評価することができました。また、計測によって数値化されたことで、傾向分析をすることが可能となりました。客観的なデータを活用することにより、的確な安全教育内容の作成と労災予防策の立案ができます。導入し

たことにより、測定-数値化-分析から安全教育並びに労働災害予防へつなげる一連の仕組みを構築することができました。また、測定結果をもとに傾向を分析できたことで、次の転倒リスク低減策を検討することができます。継続することで、転倒リスクが改善されることを目指しています。

今後の展望

傾向分析を活用した継続的な改善と、全社的な展開を視野に。

分析した結果を社内で公表することにより、全社的な注目を浴びることで、スムーズに今回の仕組みを国内拠点へ展開することができます。

この活動は、労働災害の削減と健康経営に貢献することができ、また、従業員にとっては、安心して健康的な職場を提供することを目指しています。

TDK様、ありがとうございました。**UNTRACKED**株式会社は今後もTDK様の安全衛生活動のお手伝いさせていただきます。



田中貴金属工業株式会社様StA²BLE導入事例

田中貴金属工業株式会社様が実施した「転倒リスク評価イベント」に、弊社の転倒リスク計測装置StA²BLEをご活用いただきました。イベントの詳細は以下の通りです。

1. 導入の目的

労働災害「0件」に向けた取り組み

2. 導入の概要

実施時期	- 2025年5月21日～5月29日
実施内容	- 60秒で計測および改善提案 - 立位年齢(転倒リスクの可視化)の身体機能および感覚機能の測定結果に応じてお勧めのトレーニング提供
実施人数	- 約240人

3. アンケートの抜粋

参加者の感想

- 自分の弱い部分があり、おススメのトレーニングを参考にしようと思った
- 実年齢よりも若く結果が出て嬉しかった

管理者の感想

- 定期健康診断の日程に合わせて実施したので多くの人に参加してもらえた
- 部署によっては結構な盛り上がりがあったようで期間中、「何歳だった?」と話題になっていた



キューピー株式会社五霞工場 ファインケミカル本部五霞工場様StA²BLE導入事例

キューピー株式会社五霞工場およびファインケミカル本部五霞工場様が実施した「転倒リスクチェック」に、弊社の転倒リスク計測装置StA²BLEをご活用いただきました。イベントの詳細は以下の通りです。

1. 導入の目的

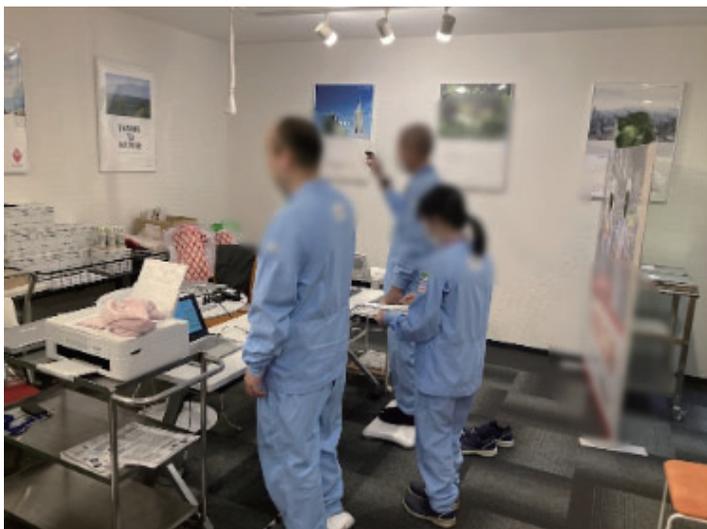
転倒災害をなくすためにひとり一人の安全意識を高め、自分の身体の状態を知り、転びにくい身体づくりを行動につなげる

2. 導入の概要

実施時期	- 2025年4月16日～4月21日
実施内容	60秒で計測および改善提案 1. 立位年齢(転倒リスクの可視化)の身体機能および感覚機能の測定 2. 結果に応じてお勧めのトレーニング提供
実施人数	- 約447人

3. アンケートの抜粋

- 日頃は意識していない、転倒リスクを年齢と評価判定をしてもらうことで、客観的に自分のリスクを知ることができました。特に年齢が出ることにより、個々人の結果で盛り上がる場面も見受けられ、注意喚起に繋がったと思いました。結果から適した運動の推奨もあり、大きく転倒防止へ意識の向上ができたと感じました。
- 簡単に転倒のリスクを調べることができ、年に一回はやってみたいと思いました。
- 身体能力が低下していることを知りました。トレーニングが続けられそうです。



キヤノン株式会社取手事業所様StA²BLE導入事例

茨城県のキヤノン株式会社取手事業所様が実施した「転倒リスク評価イベント」に、弊社の転倒リスク計測装置StA²BLEをご活用いただきました。1カ月の間実施されたイベントの詳細は以下の通りです。

1. 導入の目的

- 転倒による生活型災害防止

2. 導入の概要

実施時期	- 2024年10月22日～11月19日
実施内容	1分で身体&感覚機能を評価 1. 立位年齢(転倒リスクの可視化)の測定 2. 結果に応じてお勧めのトレーニング提供
実施人数	- 延べ951名

3. アンケートの抜粋

約98%が「満足・やや満足」

- 普段は転倒リスクを気にしないため、良い機会になりました。
- 年齢などで結果が表示していると実感しやすくて良かったです。また参加したいです。
- 短い時間で自分の身体の状態を確認でき、意識も高まり有意義なイベントで良かったです。
- 最近特に、何も無い様な床でつまづく事が多くなっていたので、意識して足をあげて歩こうという気づきのきっかけになりました。



八千代市リハビリテーション協議会様導入事例

八千代市リハビリテーション協議会様に「第2回やちけあフェス」で、弊社の転倒リスク計測装置StA²BLEをご活用いただきました。イベントの詳細は以下の通りです。

1. 導入の目的

- 転倒リスクを可視化することで、八千代市住民の健康意識を高める目的

2. 導入の概要

実施時期	- 2025年2月2日10時00分～16時00分
実施内容	第2回やちけあフェス内ブース 立位年齢(転倒リスクの可視化)の測定
実施人数	- 約80名

3. アンケートの抜粋

参加者のご意見

- 今回の転倒リスク計測は、とても勉強になり、大変参考になりました。
- レポートを確認することで貴重な情報を得ることができました。
- 自分の転倒リスクを測るのは初めてで驚きました。これをきっかけに、もっと体を動かそうと思います。
- 普段の運動の効果が表れていてうれしい、今後も維持できるように頑張りたいです。

計測者のご意見

- 自身の状況を可視化できることはわかりやすく、計測者としても伝えやすかったです。
- 仕事で高齢者の方と接する機会が多いので、こういった計測機器が施設にあるといいと思いました。



「堺市 StA²BLE による転倒リスク計測会検証結果」の報告

UNTRACKED株式会社は、大阪府堺市、シャープ株式会社と協力して、堺市の商業施設で開催した健康イベントにおいて、転倒予防に関する検証を実施しました。この検証が無事に終了し、その結果を確認できました。



1. 検証の目的

「元気になるうプロジェクト」イベント参加者の、転倒予防に対する意識変容・行動変容および、運動継続率について検証を実施しました。



詳細はこちら

2. 検証の概要

実施時期	- 2024年4月～6月	利用者の背景	- 計測体験人数 61名
実施内容	- 転倒リスク計測を毎月実施(全3回) - 個々の評価に応じた改善プログラムの提案		- 運動習慣あり 56%
検証項目	- イベント継続参加率 - 参加者の意識変容・行動変容効果 - トレーニング継続率 - 転倒リスク改善率(初回結果との比較)		

3. 転倒リスク計測技術 StA²BLE と転倒予防ソリューション

StA²BLEは、横浜国立大学の研究成果を基に UNTRACKED が開発した転倒リスク計測システムです。UNTRACKEDとシャープはこのStA²BLEを発展させた「転倒予防ソリューション」を共同開発しました。本検証では「転倒予防ソリューション」を活用し、1分の計測で転倒リスクを可視化しました。さらに、個々の計測結果に応じた改善トレーニングを提案し、次回の計測で効果を確証しました。

【3種のトレーニングを提案】

【カレンダー活用し体操実施】

【利用者ご自身で計測を実施】

4. 改善結果及びアンケート集計のまとめ

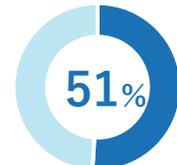
イベント来場者の転倒予防に対する意識変容・行動変容効果、
継続参加者の高い運動継続率とリスク改善効果があることを確認

■ 転倒予防に対する高い関心と継続的な取組み要望あり

各回の継続
参加率

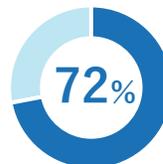


計測結果説明が
わかりやすい

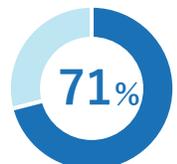


■ 継続参加者の意識・行動変容効果を確認

意識/行動
変容あり

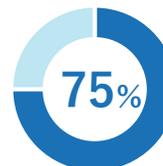


本イベントきっかけで
運動実施した



■ 転倒予防トレーニング継続で転倒リスクが改善

トレーニング実施した
継続参加者



転倒リスク(立位年齢)

3.7歳改善

5. ご利用者様のご意見



- ・ 社会福祉の観点としては、イベントに参加して、人と人が繋がれるという部分も大きかったと思う。
- ・ 表示された体操も取り入れました。これからも続けます。
- ・ 足のタオル運動をしている。継続したい。
- ・ 前回よりさらに年齢が良くなっていたので、うれしい。



公益財団法人 大原記念労働科学研究所 様のレポート



事業内容

労働環境改善の研究

導入製品

StA²BLE計測プラン

利用時期

2024年3月、2024年8月

本検証は 日本労働科学学会第5回大会(小倉)で学会発表されました。

P4-2 日本労働科学学会第5回大会(小倉)

高年齢労働者の平衡感覚・姿勢保持能評価に関する評価手法の検討

石井 賢治¹、松田 文子¹、芳地 泰幸²、
原田 君余³、永峰 大輝⁴、池上 徹¹、瀬崎 昌子⁵、
酒井 一博¹

¹大原記念労働科学研究所 ²福天堂大学スポーツ健康科学部
³川崎国立短期大学看護学科 ⁴東京女子医科大学医学部
⁵東京女子医科大学看護学部

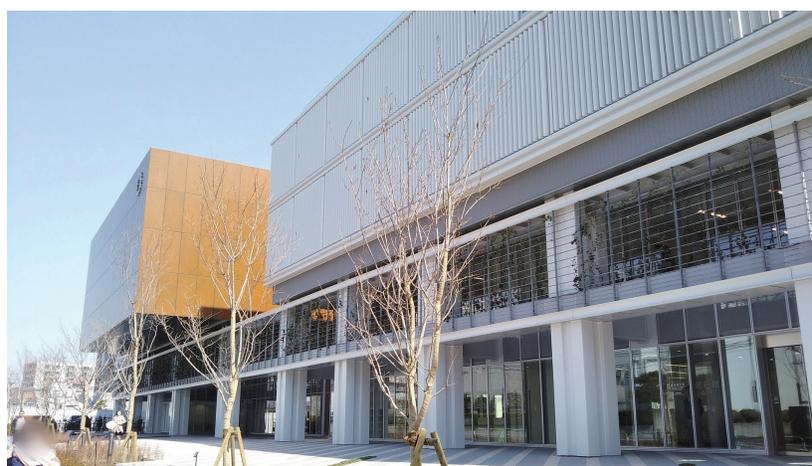
方法

- StA²BLE (UNTRACKED株式会社)
 - ・ヒトが何かに触れていると安定するというライトタッチ現象を応用し、転倒リスクを計測する
 - ・指先に小型の機器を装着し、機器を装着した腕の腕を顔の高さ程度まで舉上させ、重心動揺計上で立位を保つ。
 - ・各回と同時に、指を一定のリスムで前後に動かし、1分間で/ランズ年齢および立位年齢を計測した。
 - ・説明表示に費やす時間は約1分半、測定時間1分。



日本労働科学学会第5回大会

「高年齢労働者の平衡感覚・姿勢保持能評価に関する評価手法の検討」より抜粋



日本有数のシンクタンクである公益財団法人大原記念労働科学研究所は、労働者の安全や健康、労働環境の改善に長年取り組んでいます。現在、厚生労働省の助成を受け、高齢労働者の身体能力や転倒リスクについての研究を進めています。この研究の一環として、当社の「転倒リスク計測装置 StA²BLE」が導入されました。今回、公益財団法人 大原記念労働科学研究所の特別研究員松田文子博士から、StA²BLEを選んだ理由や導入の効果についてお話を伺いました。

StA²BLEによる簡便な計測で

高齢労働者の転倒リスクについての研究に貢献

背景

- 転倒事故は高齢労働者の労災原因のひとつ。転倒には様々な要因がかかわっている。
- 産業現場の転倒リスク評価には、手軽に、簡単に操作が可能で、費用も安価に抑えられるものが求められている。
- 評価ツールの選定には研究論文が出されているなどの信頼性が必要。

使用

結果

- 研究活動において、プレ測定、追加調査ともに滞りなく計測が実施できた。
- 大掛かりな装置を使わず、専門的な操作がなく使用できる。多くの費用もかけずに導入できた。
- すぐにプリントアウトして渡せるため、測定した方々も楽しみながら参加していた。

大原記念労働科学研究所の取り組みについて教えてください

大原記念労働科学研究所^{※1}は、1921年に倉敷紡績を創立した大原孫三郎が設立しました。当時、紡績会社に勤務していた多くの若い女性の健康と安全を守るために、労働環境改善の研究を始めました。現在では東京都に拠点を移し、疲労、負担、ヒューマンエラーなど多様な産業の安全問題について研究を続けています。高齢労働者や外国人労働者が増える中、現場密着型の姿勢で研究を進めています。

労働現場で転倒事故が問題となる中、転倒リスクの評価の重要性は？

転倒事故は高齢労働者の労災原因のひとつであり、特に転倒で骨折した場合、長期休業につながるものが課題とされています。転倒には、体幹やバランス機能、認知機能、疲労、環境要因などが関わっています。転倒リスクの評価ツールとしては、評価だけでなく、改善プログラムや環境の改善などの解決策がセットになっている必要があると考えます。

「高齢労働者の心身機能の測定及び指標の作成^{※2}」について

厚生労働省の助成を受けて、産業医科大学の財津将嘉教授らとともに高齢労働者の身体能力や転倒リスクの研究が進められています。特に、転倒防止のための身体能力の指標作成が主な目的です。高齢労働者が安全に働ける環境作りのために、心身機能を測定し、その指標を整理する研究が進んでいます。

プレ測定として45名を対象に、追加調査では120例を対象に調査が行われており、転倒リスクの予測や転倒防止策の確立に取り組む予定です。

今回なぜStA²BLEを転倒リスク評価ツールとしてお選びいただいたのですか？

- エビデンスの信頼性：現在進行形で検証実験が行われていると聞いていたので、期待もあります。
- 手軽な測定：大掛かりな装置を使わず、現場で簡単に使用できます。
- 費用対効果：測定にかかる費用は高くありません。
- 簡単な測定方法：専門的すぎず、現場での導入がしやすいです。

StA²BLEを実際に導入した感想を聞かせてください。

- プレ測定で年齢との相関性もある程度確認でき、追加調査でも使用しました。
- 測定結果をすぐにプリントアウトして渡せるため、被験者に好評でした。
- 測定方法が簡単で、実際に測定した人たちも楽しみながら計測に参加していました。
- 結果の算出方法が少しわかりにくいところがありましたが、丁寧な説明をもらい、理解できたのはよかったです。

松田様、ありがとうございました。
UNTRACKED株式会社は今後とも大原記念労働科学研究所の研究をお手伝いさせていただきます。

※1 公益財団法人 大原記念労働科学研究所ホームページを参照

※2 日本労働科学学会第5回大会「高齢労働者の平衡感覚・姿勢保持能評価に関する評価手法の検討」を参照

広島県尾道市 健康推進課 様のレポート



内容	- 地方自治体
導入製品	- StA²BLE 計測プラン
時期	- 2024/9～ さわやか健康大学 - 2024/11 おのみち市民健康まつり

この活動は
各新聞社に掲載されました！

中国新聞社

読売新聞社

尾道新聞社

山陽新聞社



尾道市健康推進課様は、市民の健康の改善に幅広く取り組んでいます。現在尾道市民の健康の向上及び転倒災害によるQOL低下と医療費増加の抑止を目的として、2024年度9月から3月にかけて当社の「転倒リスク計測装置 **StA²BLE**」を活用した転倒予防の取り組みを行っています※。**StA²BLE**は、転倒リスクを数値化してその場で結果を出力できる装置で、測定会でも高く評価されています。

今回、尾道市健康推進課、(係長)野坂有里子様、(保健師)井上忍様から、StA²BLEのご使用状況や導入効果についてお話を伺いました。

※ UNTRACKED(株)プレスリリース:「広島県尾道市で、市民の転倒予防に関する検証を実施」を参照。

転倒予防の重要性を実感

背景

- 尾道市では骨折による入院にかかる医療費の割合が多いため、転倒予防対策が重要視されている。
- これまで転倒リスクを計測することに特化したサービスはなかった。

使用

結果

- 市民対象のイベントで活用することで、転倒予防の重要性を実感してもらえた。
- 簡単に測定ができ、結果が視覚的にわかりやすいと好評であった。
- 自宅での転倒リスクや自身の筋力・バランスについて意識する良い機会になった。

尾道市での取り組みについて教えてください。

尾道市の健康推進課ではおのみち健幸チャレンジ+10といったインセンティブ事業を通じて、市民が継続的に運動できるよう支援しています。また、地域には健康教室のようなサロンもあり、健康推進課では転倒予防の講演や骨密度の測定などを行っています。講演会では整形外科や運動の専門家を招くこともありますが、これまでリスク計測の取り組みはありませんでした。尾道市では骨折による入院にかかる医療費の割合が他の自治体と比べて多いため、転倒予防対策が重要視されています。

StA²BLEへの期待はどのようなものでしたか？

(井上様)

数値化された転倒リスクがわかる「StA²BLE」を活用することで、転倒予防の重要性を実感してもらい、改善の必要性を伝えられたら嬉しいです。StA²BLEは簡単に測定できるため、市民健康まつりなどでも活用でき、高齢者だけでなく若い世代にも転倒予防の意識を持ってもらう機会になると思います。StA²BLEが転倒リスクをどこまで測れるか疑問に思っていたが、実際に使ってみると手軽で導入しやすいと感じました。

(野坂様)

測定結果が出ることで日々の運動への意識が高まり、良いきっかけになると評価しています。職員同士でもデータを共有し合い、結果を楽しんでいました。

導入後の実施状況はいかがですか？

現在、尾道市の久保地区と高須地区での健康教室でStA²BLEによる測定を行っています。この測定を通じて、参加者は自宅での転倒リスクや自身の筋力・バランスについて意識する良い機会になりました。測定後には理学療法士が説明を行い、次回までに数値の改善を目指せるようにカレンダーを配布しました。QRコードを利用した指導もしていますが、インターネット環

境がない方のためには紙での運動指導が良いと思います。今後は今回の取り組みが尾道市の医療費にどのように反映するかなどについてもまとめていきたいと考えています。



他の自治体へのおすすめポイントは？

StA²BLEは簡単に測定ができ、結果が視覚的にわかりやすいです。高齢者にも理解しやすい運動アドバイスもあり、住民にとっても親しみやすいと感じています。

使い方の改善と導入の際の希望を聞かせてください。

デバイスの接続機器が多く、充電切れもあるため、仕様がさらにシンプルになり、電池容量が増えるとありがたいです。また、手の振り方が人によって異なるため、精度がどうなのか気になる方もいます。装置の導入には価格の手頃さや結果分析のフィードバックが得られる事が望ましいと考えています。

野坂様、井上様ありがとうございました。
UNTRACKED株式会社は今後とも尾道市の取り組みをお手伝いさせていただきます。

StA²BLE[®]

セット内容

- StA²BLEデバイス
- 解析ソフトウェア内蔵パソコン
- 重心動揺計
- Webカメラ

レンタル 計測会

など、ご要望に応じて対応しております。お気軽に、お問い合わせください。

※ カメラはオプションです。

StA²BLEデバイス

主な仕様

■ サイズ

- ① 制御ユニット
W68×D50×H25.2
- ② 振動型加速度センサ
W60×D15×H15 (M)

※振動型加速度センサはSMLの3サイズがあります。

- 電源：miniUSBポート充電式
- 連続駆動：約 300人 ※2025年販売
- 通信方式：Bluetooth



StA²BLE体操

結果に応じた、理学療法士お勧めの18種類の体操を提案。レポートへの記載だけでなく動画での提供も可能です。体操は今後はさらに種類を追加予定です。

※体操種類は、提供形態によって異なります。

■ 機能改善体操の一例



身体機能
を高める体操

感覚機能
を高める体操

セルフモード

StA²BLEにはオペレーターモード(計測員による計測)とセルフモード(自身での計測)があります。セルフモードでは動画を用いてわかりやすく説明されるため、計測員がいない休憩室等でも活用できます。

※閉眼で計測するため、「セルフモード」時は万一の転倒に配慮し実施して下さい。



「StA²BLE[®](ステイブル)」と「立位年齢[®](りついねんれい)」はUNTRACKED株式会社の商標登録です

本件に関するお問い合わせはメールにてお願いいたします



詳細はUNTRACKED株式会社サイトの新着ニュースにて配信中

